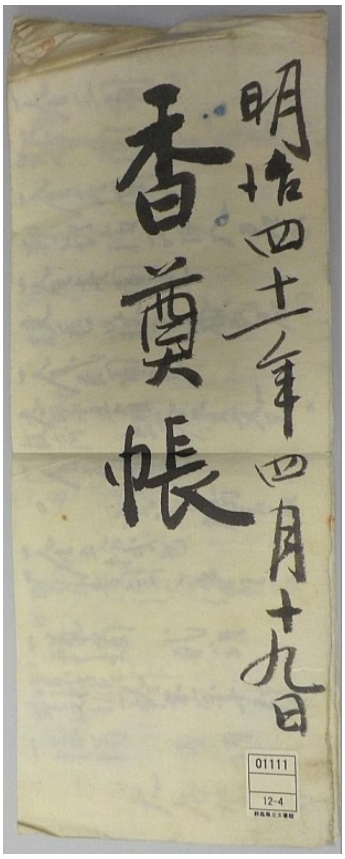
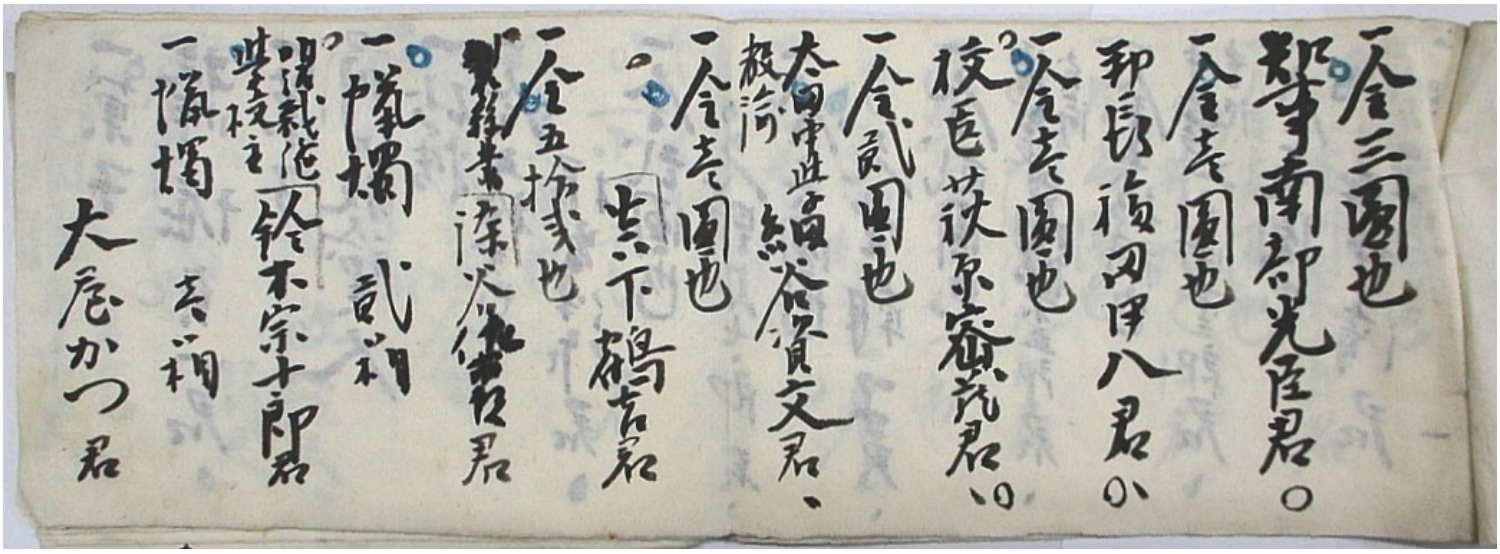
㊶香奠帳（こうでん）

明治41（1908）年4月19日

和歌山県出身の山高幾之丞（やまたかいくのじょう）は、明治35（1902）年に群馬県女子師範学校（しはんがっこう）（現在の群馬大学教育学部）の初代校長となり、在職中に亡くなりました。幾之丞の逝去（せいきょ）に際し、当時の群馬県知事南部光臣や、郡長、学校医萩原密蔵ら多くの人から香典（香奠全額204円70銭）が寄せられたことがわかります。なお、山高幾之丞が記した『明治三十五年度教育家用懐中日記』（P01111 No.1-7）・『明治三十九年懐中日記』（P01111 No.1-8）の中にも、学校医として萩原密蔵の名前が散見されます。

山高幾之丞関係文書　P01111　No.12-4